

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



「備中松山城」(高梁市)

翔



私自身、保育園で働いて感じていることは、就労支援と子育て支援のバランスを取ることの難しさです。仕事を優先しすぎると、家族と過ごす時間が減ってしまい、家族を優先しすぎると仕事に影響してしまいます。子どもの立場から考えると、家族と一緒にいたいという思いがあり、親の立場から考えると、子どもと多くの時間を過ごしたいと思っけていても、なかなか休みが取りにくい労働環境であり、社会全体も子育てしにくい社会だと思っています。そのような環境ではあります。自分の分身と言えるほど、かけがえない子どもたちを育てることは大切なことです。ぜひ、この時期しかできない子育てを楽しんでいただくためにも、子どものために休みを取って、多くの時間を過ごしてください。私事ですが、息子はこの春から大学生になって県外で暮らすようになり、親の手から離れ、少し寂しくなりましたが、今は中学生の娘と一緒にジャニーズやJ-POPの話題で楽しく過ごしている今日この頃です。

出口 太朗

保育探訪 Part6

～大人の笑顔が子どもの心を育てる～

中国短期大学
保育学科 准教授

土田 豊



突然ですが、みなさん、ワクワクドキドキしていますか？日常生活の中でワクワクキすることが、子ども達の心を育てると言われています。

人間は、二足歩行ができるようになったことで、他の動物に比べ大きな脳を獲得しました。その脳の真ん中にある「扁桃体」という部位が、やる気や意欲を生み出すところと言われています。そしてこの扁桃体で生まれたやる気や意欲をコントロールするのが、前頭葉（おでこの裏側）です。人間は、感情をコントロールしたり、周りの人とコミュニケーションをとることができるようになったりしたことで、ヒトから人間へと進化したと考えられています。

一方、一九七八年にNH

Kと日本体育大学が共同で、全国の保育所・幼稚園・小中高校で「子どもの中から調査（実感調査）」を実施しました。この調査において、「すぐ疲れたという子」「椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにやぐにやになる子（以下、「背中ぐにやの子」）の存在が全国的に確認されました。

以来、五年おきに日本体育大学が中心となって調査を継続しています。その直近の調査が二〇一五年に実施されましたが、ワースト5には、やはり「すぐ疲れたという子」、「背中ぐにやの子」がランクインしていました。人間、自分が好きなことや得意なことをやっているときは、「疲れた」とは言いませんが、嫌いなことや苦手なことをやっているときは、つい「疲れた」の一言が出たり、姿勢が崩れてしまったりしがちです。

つまり、これらの事象は、やる気や意欲を生み出す扁桃体の未発達が原因ではと、私たちは考えました。

そこで今度は、どんな子育てや保育、教育が子ども達の心の育ちに有効

かということについて研究しました。その結果、何も特別なことは必要なく、親子が楽しく過ごすことが最善策であることが分かりました。子どもにとって身近な人（親や兄弟、先生、友だちなど）との笑顔でのコミュニケーションが、扁桃体を刺激し、やる気や意欲を生み出すことにつながります。また、ワクワクキ体験にも同じような効果が期待できます。生き物に直接触れたり、キャンプをしたりなどの自然体験、そしてお手伝いも心を育てると言われています。

私も現在三人の子どもの子育て真っ最中です。私が、子育ての中で大切にしているのは、子どもの「やりたい」の言葉です。子どもが「やりたい」と言ったときは、やる気や意欲が前面に出ている証拠です。そのタイミングを逃さず、できる限りその思いを尊重するようにしています。

息子が三歳の時の出来事ですが、包丁で野菜を刻んでいるときに「やりたい」と言った時がありました。大人がやった方が早く、均一の大きさは

百も承知ですが、その気持ちもぐっと堪えて、子どもに包丁を渡しました。きつと息子の胸は、お手伝いができるといいうワクワク感と、包丁が使えるというドキドキ感でいっぱいだったのではと思います。

また、娘が六歳になった頃、自転車の補助輪を外して乗りたいと言ったので、外しました。一週間後、娘はワクワクドキドキした表情で自転車に乗っていました。きつと子ども達は、このような日常生活の中のワクワクキ体験を重ねながら、少しずつ心が育っていくのだと思います。

現在私と同じように子育て真っ最中のみなさん、子ども達が「遊んで！」と寄ってきてくれるのも小学校低学年ぐらいまでです。日頃、お仕事でお疲れとは思いますが、大きくなったら見向きもしてくれなくなることを考えると、子ども達と遊べるのも今しかありません。子ども達との時間を一杯楽しみましょう。そして、大人も一緒にワクワクキ体験を満喫して、笑顔いっばいの素敵な家族になりましょう。

幹部研修会報告

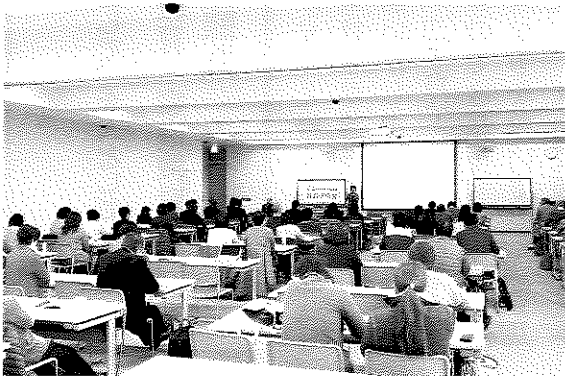
十二月十一日きらめきプラザ三階三〇一会議室に園長や主任保育士、約八十名が集まり平成三十年度幹部研修会を開催した。テーマは「選ばれる園になるための小学校までに育ってほしい学びの姿」で、講師にチャイルド社幼児教育部の相澤妙子先生をお招きした。先生は幼稚園教諭として八年間の実務経験をお持ちで、現在は保育者向け研修会の講師として全国でご活躍である。

三十年四月に適用された改正保育所保育指針は小学校との接続をより強く意識、幼児教育を行う施設が共有する事項として、「育みたい三つの資質」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿」が新たに記載された。研修テーマは新指針を強く意識した内容である。

相澤先生は、幼児教育の共通化、非認知能力（性格スキル）、小学校との接続、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、入園時から始まる就学準備、二本の柱、お辞儀の挨拶、聞く力、保

育者の心構え、考える力のサイクル、朝の会のすすめ、数の理解に向けて必要なこと、数と順序、図形（かたち）、言葉、鉛筆を持つて書く、書く時の姿勢、数字の書き順、小学校に向けて、わかるように伝える、園全体で取り組むという話題について配付資料とパワーポイントを用いて丁寧に説明、提案された。

先生が提案された内容は、既にほとんどの園で取り組んでいるものだと思うが、何故そうするのか、その活動で何を育てたいのかを再確認するよい機会となった。



例えば、「聞く力」では、しっかりと聞くための環境を作り、静かに話を聞く、最後までしっかりと聞くこと。そして子どもが自分から聞くこととする力を育てることが目標。話の腰を折ろうとする子には、アイコンタクトだけにして、言葉を返すことは避けるとよいと説明された。

「数の理解に向けて必要なこと」では、正しく数える習慣や多い少ない等、数を比べる言葉の理解を実際に物に触れながら経験し理解を促すことが大切だと説明された。

本年度から全国の保育所、認定こども園、幼稚園でアプローチプログラムが始まった。来年度からは小学校でスタートカリキュラムが始まる。就学前の教育原理は「遊びにおける無自覚の学び」、小学校は「自覚的な学び」である。教育原理は大きく異なるが、就学後を見据えた保育の実施は、小一問題緩和のために不可欠である。

幹部研修会を 受講した感想

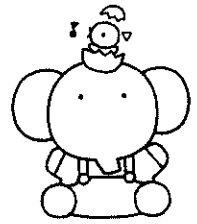
保育所保育指針について、また保育の中の具体的な関わり方や考え方など、多くのことを教えていただきました。乳幼児期にどのようなことを身につけたら小学校以降の学びに繋がるのか、また「わかった」「できた」の言葉を子どもたちから引き出せるようにすることが大切であり、すぐに間違いを教えるのではなく自分で気付けるように言葉がけを行い、考える力を身につけることが重要となります。保育者個人に任せるだけでなく園全体で考え方を整理し、共有していく事とともに、保育所保育指針について更なる理解を深め、実践していきたいと思えます。

岡山県民間保育所協議会
会長 小松原 望

落合保育園
安原 弘之



岡山県民間保育所協議会主催 保護者研修会報告



九月八日(土)くらしき健康福祉プラザにて、保護者と保育園の職員、地域の方百十五名が参加し、保護者研修会を開催しました。熊丸みつ子先生を講師にお迎えし、「うちの子、最高く子どもたちに伝えたい!親として、大人として」の演題で講演していただきました。

楽しい語り口で会場内に笑いが溢れる中、「笑顔は精神安定剤、子どもには大人の笑顔が一番。でも、子どもを見てイライラして叱っても大丈夫。子どもはステキに育っているから。うちの子最高、子育て順調よ!」というお話をいただきました。子育てに不安をもったり、落ち込んだりする事は誰もが経験している事だと思えますが、順調!順調!と励まされ、心



熊丸みつ子先生
園長 大西 美子

『うちの子最高』
子どもたちに伝えたい!親として、大人として』
子育てアドバイザー 幼児教育・家庭教育専門家
熊丸 みつ子 先生

「ライメン体操」や「伝説のシシカバブー」を踊ると、会場が一気に盛り上がりました。子どもだけでなくお父さんや職員もステージに参加。「はなまる温泉」ではポンポンを持って、子どもたちをくすぐって会場は笑いに包まれました。「大人が笑えば子どもが笑う!」というキャッチフレーズのコンサート。大人もキャッチフレーズ通り笑い、子どもも大人も笑いっぱいなしの



江西桜こども園
園長 谷本 昭彦

「子育ては親だけでするものではなく、たくさんの方が手を繋いでいくことが大切、叱って褒めて愛してと締めくくられました。」

がずっと軽くなり、元気な気持ち湧きあがってくる思いがしました。

「子育ては親だけでするものではなく、たくさんの方が手を繋いでいくことが大切、叱って褒めて愛してと締めくくられました。」

『あそびうたコンサート』
アトリエ自遊楽校
あきらちゃん&ジャンプくん

平成三十年四月に、岡山市立江西幼稚園とかたせ桜保育園が統合され、江西桜こども園が開園しました。九月に園庭も完成し、十一月三日(土)に保護者研修会として、「あきらちゃん&ジャンプくんあそびうたコンサート」を開催しました。保護者・乳幼児・職員など二六七名が参加しました。子どもたちが大好きな「ライメン体操」や「伝説のシシカバブー」を踊ると、会場が一気に盛り上がりました。子どもだけでなくお父さんや職員もステージに参加。「はなまる温泉」ではポンポンを持って、子どもたちをくすぐって会場は笑いに包まれました。「大人が笑えば子どもが笑う!」というキャッチフレーズのコンサート。大人もキャッチフレーズ通り笑い、子どもも大人も笑いっぱいなしの

一時間でした。日々忙しく子育てしていると「笑うことを忘れてしまいがちですが、親子でいっばい笑い合ったコンサートになりました。また私たち職員も、新しい遊びを知り、あきらちゃんの声かけのタイミング、遊びの展開など普段の保育にすぐ取り入れられる遊びばかりでとても参考になりました。」

『親子で触れ合い遊びを楽しもう!』

あそび歌作家 ぼくとときみ。

十二月八日(土) 水島愛あい

サロンにて、保育園の親子や地域の親子・保育士九〇名が参加し、保護者研修会を開催した。

講師には「スーパードライブ歌グループ」の『ぼくとときみ。』さんをお迎えし、親子で触れ合い遊びを実際に行いながらスキンシップを図る事の楽しさや、重要性を学んで頂いた。

今回の研修会は、親子での触れ合い遊びを中心に行われたが、研修会の中で、愛着関係を形成する上でのスキンシップの重要性についても伝えた。触れ合い遊びは、大人も子どもも一緒に楽しめる内容で会場全体が親子の歓声や笑顔で溢れていた。

研修会の終わりには、講師の先生が「研修会で学んだ触れ合い遊びを通してスキンシップを積極的に行って欲しい」と強く

伝えられた。

参加された保護者の方からは「研修会で学んだ事を活かし、家でも積極的にスキンシップを図っていききたい」という声が聞かれ、多数の方から「参加してよかった。また研修会に参加したい」という感想を頂いた。

小ざくら保育園

園長 財前 亘



『子どもに育てよう「思いやり」の心』

子育て支援コンサルタント 塩川 正人 先生

一月十二日(土) 操南保育園

にて、保育園の保護者と職員合わせて四十六名が参加し、保護者研修会を開催しました。

初めに、家族の在り方についてお話しされ、大切なものとは何であるかに気づかされたり、思いやりの三原則「手伝う・励ます・ありがとう」を具体的に行動で表したりすることが家族や社会の幸せに繋がっていくということを教えて頂きました。

そして、思いやりシートを使い、「自らの課題、改善方法、実行後のプラス効果」を考え、グループで話し合いました。子を持つ親でもある私にとって、保護者の方の悩みや願いを聞くことで、同じ思いなのだと思ふにもなり、実際にシートへ記し、文字にすることでやらなければならぬことが明確になり、取り組んでみたいと思えました。最

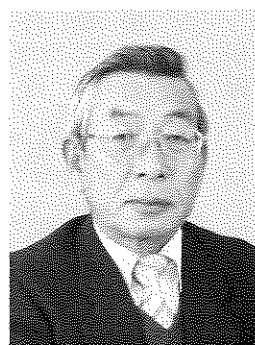
後に一人ずつ発表した感想の中には、「思いやり貯金」をして家族を幸せにしたい、自分を見つめ直す機会になった、思いやりの輪を広げていきたいなど、会場全体で幸せの共有ができたように感じられました。

操南保育園

主任保育士 山本 陽子



土居義幸先生
瑞宝双光章受章



土居義幸先生は昭和五十三年より高野保育園に勤務され、昭和五十五年四月に高野第二保育園園長に就任され、その後は高野保育園園長として永きに渡り地域の子育て拠点として保育事業を運営してこられました。

また、津山市保育協議会の津山市民間保育事業協会の会長として通算十七年に渡り津山市の児童福祉の増進に寄与された功績は誠に顕著であります。津山市行政においても、三期十二年間、津山市議会議員を務められ、地域福祉の向上にも御尽力されました。

西口 元庸

新規加入園紹介

小ざくら小規模保育園 (平成28年4月1日開園)

倉敷市水島青葉町1-18 (福)クムレ 定員18名

小規模保育園ならではの家庭的な雰囲気をお大切にしながら、一人ひとりの子どもに丁寧にかかわり、「生きる力を育む」保育に、保護者や地域の方々と力を合わせて取り組んでいきます。 園長 中谷 成美



新任園長紹介



〈岡山市〉
みかど貴ツズ保育園
糸島恵子先生



〈倉敷市〉
小ざくら夜間保育園
村川大介先生



〈倉敷市〉
鳥の子保育園
田鶴原浩加先生



〈倉敷市〉
ひまわり乳児保育園
木村光貴先生



〈井原市〉
せいび保育園
榎田紀子先生

転任園長紹介

中谷 成美 先生

小ざくら夜間保育園↓
小ざくら小規模保育園

表紙のことは

「備中松山城」

つわものどもが夢の跡
在りし日のもののふの
鼓動を感じて

標高四三〇mの臥牛山頂上付近に建つ天守は、国の重要文化財で、現存天守を持つ山城としては最も高い所にあります。鎌倉時代、有漢郷(現高梁市有漢町)の地頭秋庭重信が大松山に城を築いたのを起源とし、一六八三(天和三)年に水谷勝宗によつて三年がかりで修築され、今の天守の姿になりました。

この地は山陰と山陽を結び、東西の主要街道も交差する要地であるため、戦国時代は激しい争奪戦が絶えず、目まぐるしく城主交代が繰り返されています。

登城坂の周囲は、高さ十m以上の巨大で切り立った岩壁がそびえ、昔日のつわものたちが舌を巻いた『難攻不落の名城』の面影をうかがい知ることができます。白い漆喰塗りの壁と黒い腰板のコントラスト、空の青に映える美しい天守。秋には大手門付近の木々が紅葉し、岩壁が燃えるような朱色に覆われる景色は圧巻です。

出典(一社)高梁市観光協会

編集後記

今期最後の「県民保協たより」の発行となりました。昨年の「調査活動」として、キャリアアップ研修に対するそれぞれの意見を共有し、岡山県へ要望することができました。

今年度、夏、西日本豪雨の甚大な災害発生を受け、子ども達の命を守るということについて、自治体によって対応に大きな違いがある現状がわかり、「警報等発令時の休園基準に関する調査」を実施しました。この調査結果をもとに今後各地区で所轄の自治体と園児の安全をどう守るかを考える上で活用いただければと思います。

次年度は制度の見直し、特に「保育料無償化」に向けて国から具体的な内容が示されます。今後、より一層の「調査活動」が重要になって参ります。引き続きご協力をお願いいたします。最後に参りましたが、この二年間ご寄稿頂きましたみなさま方、本当にありがとうございました。

西口 元庸

この機関誌は、共同募金より一部助成を受けています。

